

小豆支部メディア教育研究部会活動報告

研究主題

「さまざまなメディアを活用し、
主体的に学習する生徒の育成」

1 研究の概要

- (1) 第1回部会（5月1日 土庄中学校）
研究組織・研究テーマ・研究計画の策定
- (2) 第2回部会（12月16日 池田中学校）
研究授業 授業者：大山 修 教諭
題材：情報通信ネットワークの利用
（第2学年技術・家庭）

2 各校の取り組み

(1) 土庄中学校

① 取り組み

総合的な学習の時間に、コンピュータ室のパソコンやノートパソコンを使用し、学習のまとめをしている。発表の時は、パワーポイントを使い、発表の工夫を凝らしている。

教職員においては、現職教育でセキュリティについての説明を行い、各自のパソコンには、必ずパスワードをかけ、第三者に勝手に中身を見られないようにしている。また、各自のUSBメモリにもセキュリティをかけておくようにしている。その方法についても紙面や口頭で知らせ徹底している。

② 今後の課題

コンピュータを活用した授業を行う場合、各教室の設備が十分でないために、毎回、スクリーンや液晶プロジェクターを準備しなければならない状況で、準備に時間と手間がかかる。新校舎の教室環境に期待している。また、コンピュータを使って授業改善を推進していかなければならないが、そのために、現職教育で活用方法や利点などを全職員で研修し、積極的に推進できるようにしていかなければ

ならない。

(2) 豊島中学校

① 取り組み

総合的な学習の「豊島の歴史や産業を調べ、そのよさや奥深さを全国に発信しよう」というテーマのもと、豊島の歴史や農作物の状況など、資料を検索しながら、情報を収集した。また、メールを使い、遠方の大学の先生に情報提供の依頼を行ったり、資料の受け渡しをしていたりした。

現地調査の結果や収集した資料は、プレゼンテーションソフトを



を使い、まとめた。これを液晶プロジェクターで投影しながら、校内の文化祭、地域の文化祭で発表し、地域の方や保護者に豊島のよさを再認識していただく機会となった。これらを世界に発信するために、学校のホームページに掲載する予定である。自分たちの住む島のすばらしさを多くの人に知ってもらえることは、学習する生徒にとって大いに励みとなった。

また、国語の授業では、エクセルに文章を貼り付け、傍線、矢印を移動させながら学習指導を行った。本文を板書する時間が省かれ、効果的に学習指導をすることができた。理科の授業（地震や火山の噴火）では、インターネットを介してデータベースに接続し、必要な映像やデータを活用した。動画教材も多く、主体的にサイト内のデータを検索させることで、生徒の興味・関心を高めることができた。

② 今後の課題

校内の生徒用LANやコンピュータ関連機器は、現在の使用に対応できるだけの数量を保有しており、その活用法について現職教育等でさらに研究、研修をしていかなければならない。さらに、来年度8月で、コンピュータやセキュリティおよびフィルタリングのソフトウェアのリース契約が期限切れとなるため、その整備をしなければならぬ。

(3) 池田中学校

① 取り組み

コンピュータ教室については、生徒は技術・家庭科の時間と月に3時間程度の学級コンピュータの時間に使用している。また、総合的な学習の時間の調べ学習や発表会の準備等にも利用している。職員室については、グループウェアを活用して公文書の閲覧、教職員間の文書のやりとり等に活用している。

1学期に、コンピュータ教室の使い方と、学習支援ソフトの簡単な使い方の研修を行った。2学期には技術・家庭科の「情報とコンピュータ」の研究授業を行い、再度学習支援ソフトの使い方と授業の中でのプレゼンテーションソフトの活用方法を研修した。実際に生徒が操作している画面を確認したり、操作方法を見せたりすることで授業内容の理解が深まった。

② 今後の課題

2学期末には、総合的な学習のまとめとして、発表に向けてのプレゼンテーションの資料を作ったり、まとめの文章を作ったりする。また、各教科で調べ学習等に使用する機会も増えてきている。そこで、コンピュータの使い方だけでなく、情報モラルについても研修し、全教員が必要に応じて指導できるようにしていかなければならない。

(4) 内海中学校

① 取り組み

昨年度、新校舎になり、校内のICT環境が整った。すべての教室に液晶プロジェクターとスクリーン、すべての普通教室にはノートPCが設置され、どの教室からもインターネットに接続できるよう、校内LANも整備された。この環境を利用し、今年度はさまざまな授業において、プレゼンテーションソフトで作成した教材の活用や、Webカメラとビデオチャット機能を利用した海外との交流などを行っている。また、総合的な学習の時間では、調べ学習を行ったり、学習したことをプレゼンテーションにまとめたりして、人権集会の学年発表に役立てた。

② 今後の課題

ICTを活用した教材作成のノウハウを学んだり、すべての教員がこのICT環境を生かして授業が行えるように職員研修を行うことや、作成した教材を教員間で共有したりすることを推進していかなければならない。また、海外とのリアルタイムの交流に活用する場合には、時差も考慮しながら、交流先との交渉を進めていかなければならない。

3 おわりに

どの学校においても、ICT環境が整ってきている。最新機種のコピーが約40台導入され、校内のネットワークが完備されてきている。ネットワーク上にはサーバが設置され、校務データが蓄積できるようになっている。このようにハード面での整備はどんどん進んでいるものの、活用する側のスキルアップがそれに追いついていないのが現状である。ハード面の進歩に伴い、活用する側のスキルアップのために、校内だけでなく都道府県レベルでの研修をも行っていく必要がある。今後、さまざまなメディアを生かした授業が増えていけば、生徒の興味・感心・意欲も高まり、主体的に学習に取り組める生徒も増えていくであろう。